



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

# ECCELL 社会人プログラム 変革期の乳幼児教育・ 保育を考える

平成27年度 後学期

## 【お知らせ】

ECCELL 社会人プログラムは、平成 27 年度が一応の事業最終年度となりますが、平成 28 年度以降の継続に向けて鋭意努力しております。現時点では未定ですので、秋以降に HP 等をご覧くださいませよう、よろしくお願いいたします。



## 〔開講科目〕

科目コード: 10500145

**子どもと家族Ⅱ** (月曜日) 2単位

10/5(月)～1/25(月) 18:20-19:50 加藤邦子

科目コード: 10500139

**乳幼児教育・保育政策論Ⅳ** (水曜日) 2単位

10/7(水)～1/27(水) 18:20-19:50 逆井直紀

科目コード: 10500150

**現代保育課題研究Ⅹ** (木曜日) 1単位

10/1(木)～1/21(木) 18:20-19:50 浜口順子ほか

科目コード: 10500146

**比較保育実践研究Ⅴ** (集中講義) 1単位

11/15(日), 12/23(水祝) 金澤妙子

科目コード: 10500148

**子ども家庭支援相談Ⅳ** (集中講義) 1単位

1/30(土), 1/31(日) 安治陽子

■ 受講生は「お茶の水女子大学 科目等履修生」として登録され、授業回数の3分の2以上出席する他、一定の条件を満たした場合には、単位が認定されます。

■ **男性も受講可能**です。

■ 開講日時：シラバス（別紙）をご確認ください。

■ 納付金：

検定料 9,800 円

入学料 28,200 円（継続の場合、3年間有効）

授業料 14,400 円（1単位につき）

※本学卒業生・修了生は、入学料が無料となります。

詳しくは、お茶の水女子大学 ECCELL ホームページ  
をご覧ください。

⇒ <http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji>

## 応募期間

平成27年7月21日（火）～ 8月3日（月）（※消印有効）

## 応募方法

出願要項・入学願書をお茶の水女子大学ホームページからダウンロードしてください（大学学務課窓口にも直接請求することもできます）。

出願に必要な書類を整えた後、下記〔願書送付先〕までご郵送ください。

⇒ お茶の水女子大学ホームページ： <http://www.ocha.ac.jp/>

## 〔願書送付先〕

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学 学務課（電話：03-5978-2722）

## 〔問い合わせ先〕

お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム（特別設置科目）担当

電話：03-5978-5949 E-mail: [nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp](mailto:nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp)

# 平成27年度 後学期 開講科目

## ■子どもと家族Ⅱ（月曜日）

加藤 邦子（宇都宮共和大学子ども生活学部 教授）

少子高齢化社会における子育て支援の具体例を挙げながら、乳幼児期の子どもと家族に関する理解を深めます。親子から仲間への移行が早まっていることを踏まえ、家族および社会的育児の協働によって子どもの発達支援につながることを理解できるようにします。また、保育の可能性と限界を踏まえて他の資源と連携できるように、政策、地域、生涯発達の視点から乳幼児期の支援のあり方を探究します。

現代社会において、「親」を支援することは子どもの健やかな発達を考えていくための基礎となるものです。子どもと家族について、環境・心理・社会的側面から包括的にとらえられること、生涯発達の視点からとらえられること、子育て支援のコーディネートのあり方など、子どもと家族について生活基盤に軸足を置き、幅広く理解できるようになることを目標とします。さらに気になる親子、虐待などの具体事例を読み理解できるようになること、家族が社会的資源と連携していけるように、きめ細かな支援のあり方について理解を広げることにもめざします。各自の関心に応じて課題をもち、自らの視点を取り入れてまとめ、発表し意見交換していきます。

## ■乳幼児教育・保育政策論Ⅳ（水曜日）

逆井 直紀（保育研究所 常任理事）

2015年4月から、子ども・子育て支援新制度がスタートし、戦後築かれた幼児教育や保育の制度が、大きく切り替えられようとしています。今まさに、日本の幼児教育や保育は転換期にあり、ここ数年で劇的な変化を遂げることになると予測されています。実際に幼稚園・保育所等において日々行われている保育は、政策や制度の影響を大きく受けており、その制度・政策のありようを考えることは、保育実践を主体的に行う上で不可欠な作業といえます。後期授業では、講義ごとに、子どもをめぐる社会状況や、施設の統廃合問題や保育所の待機児童問題など乳幼児教育・保育に関わる種々の社会的、政策的問題をテーマとして採り上げ、ゲストスピーカーによる講演や、実際の保育の場を見学するなど、今後の乳幼児教育・保育のあり方をともに考えあうような内容を構想しています。

## ■現代保育課題研究Ⅹ（木曜日）

浜口 順子（お茶の水女子大学 教授）ほか

本授業では、受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成をめざします。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行ったり、読書会をするなどして、問題関心を深めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれるなど、柔軟に対応したいと思います。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表しますが、希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

## ■比較保育実践研究Ⅴ（集中講義：11/15（日）、12/23（水祝））

金澤 妙子（大東文化大学文学部教育学科 准教授）

「私が体験したイタリアの保育的日常、そして考えたこと」を主題とします。我が国でイタリアの保育と言えば、古くからはモンテッソーリ、その理論を取り入れたとする実践、1991年（米国 News Week 誌掲載）以降は、レッジョエミリアの実践が目立ちます。これらをめぐる多数の論考と動きがイタリアの保育への注目度が高いような雰囲気醸成を醸成しても、傑出した理論や方法に基づく以外の保育、1.57ショックと言われた1990年以降、我が国では広がりを見せつつある子育て支援に相当する分野については、研究も情報も欠落しています。現地での実践の観察やそこにかかわる人々の声とすり合わせながら知り得たイタリアの保育の実際を描き、イタリアの保育に関する情報と理解を広げられるようにしたいと思います。

## ■子ども家庭支援相談Ⅳ（集中講義：1/30（土）～1/31（日））

安治 陽子（お茶の水女子大学人間発達科学研究所 特任講師）

子どもと家族にかかわるさまざまな困難や課題が、乳幼児教育・保育の現場でどのように表れるのか、それらをどのように理解し、対応し、親子を支援していけるか、現場に即して実践的に考えます。その際、効果的な支援を実現するために不可欠な園内連携や保育者自身のメンタルヘルスの維持・向上、中長期的な視野に立った機関連携や地域資源の活用などにも触れ、保育の専門性を生かした親子・家族支援の展開を具体的に考えます。